

1. 再処理工場

これまでの新規制基準への対応に伴う安全審査の進捗や先行している電力各社の検討状況を踏まえ、再処理工場の一層の安全性向上を図るため、以下の主な工事案件に係る必要な設計検討および安全性向上工事の工程等について検討し、確度が高い見通しが得られたことから、総合的に判断した結果、2018年度上期としていたしゅん工時期を変更することとした。

(1) 主な工事案件

- 重大事故対処設備（凝縮器）の設置
重大事故時における放射性物質の放出量について検討した結果、放射性物質を含んだ蒸気を冷却して液体に戻して回収するため、新たに凝縮器の設置を行い、蒸発乾固事故発生時における放出量の更なる低減を図る。
- 蒸気漏えいによる制御機器等の影響評価および対策
今後の設工認申請に向けて検討した結果、廃液移送や濃縮缶等の加熱に使用する蒸気が漏えいした場合の制御機器等に対する影響評価を追加実施する。この評価結果を踏まえた蒸気暴露試験および必要な対策を行うことにより、蒸気漏えい時の設備への影響を防止する。
- 緊急時対策所の建設工事
耐震評価を見直した結果、建屋主要工事における鉄筋物量等を増加させることにより、緊急時対策所の更なる耐震性の向上を図る。

※その他の工事として、内部溢水対策（堰・防水扉の設置、緊急遮断弁の設置、耐震BCクラス配管等補強）、内部火災対策、竜巻対策等の工事を実施。

(2) しゅん工時期

- 重大事故対処設備（凝縮器）の新設は、今後、既設の設備との干渉調整、構造設計の検証および工事を実施していく必要がある。
- 以上を踏まえ、重大事故対処設備（凝縮器）の新設、蒸気漏えいによる制御機器等の影響評価および対策、緊急時対策所の建設工事の期間を精査したところ、今後の工事については、安全を大前提とした工事の合理化・短縮化に努めるが、安全審査およびそれに続く設工認等の手続きも必要であることから、2018年度上期から3年程度の期間を要する見通しであり、新たなしゅん工時期を2021年度上期とした。

【再処理工場の変更工程】

2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度
 現在の計画	しゅん工 2018年度上期			しゅん工 2021年度上期
	新規制基準をふまえた安全性向上工事等※ （凝縮器の新設、蒸気漏えい対策、緊急時対策所の建設等）			
※設工認および使用前検査含む				

2. MOX燃料工場

MOX燃料工場についても、これまでの新規制基準への対応に伴う安全審査の状況等を踏まえ、一層の安全性向上を図るため、以下の主な設計変更案件について検討し、確度が高い見通しが得られたことから、総合的に判断した結果、2019年度上期としていたしゅん工時期を変更することとした。

(1) 主な設計変更案件

- 火災対処設備の追加
火災発生時における遠隔消火のための装置や消火配管等の設備を追加設置し、消火対応策の更なる充実を図る。
- 建屋の耐震強化
燃料加工建屋内の工程室について、より耐震性の高い耐震Sクラス化を行い、放射性物質の閉じ込め機能の更なる向上を図る。
- 設備の配置場所確保のための建屋容積の増加
設備の耐震設計強化および換気排気ダクトへの延焼を防止する装置を設置する等のこれまでの安全対策に加え、上記の「火災対処設備の追加」、「建屋の耐震強化」の安全対策を行うため、建屋の容積を増加して設備の配置を変更する。

(2) しゅん工時期

- 建設の初期段階であるMOX燃料工場は、上記設計変更を反映し、今後順次建屋建築工事および設備工事等を実施していく必要がある。
- これらの期間を精査したところ、今後の工事については再処理工場と同様に安全を大前提とした工事の合理化・短縮化に努めるが、安全審査およびそれに続く設工認等の手続きも必要であることから、2019年度上期から3年程度の期間を要する見通しであり、新たなしゅん工時期を2022年度上期とした。

【MOX燃料工場の変更工程】

2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
 現在の計画		しゅん工 2019年度上期			しゅん工 2022年度上期
	建屋建築工事および設備工事※ （新規制基準をふまえた安全性向上工事を含む）				
※設工認および使用前検査含む					

3. 今後の取り組み

再処理工場およびMOX燃料工場について、今後の原子力規制委員会による安全審査およびこれに続く設工認等の手続きを行い、安全第一に現場の工事を進めるとともに、しゅん工までの期間を活用し、品質保証活動のさらなる改善、設備の健全性確認、運転員および保守要員の訓練等を継続的に実施し、安全・安定な操業運転が行えるよう全社をあげて取り組んでいく。